

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

		学士教育プログラム名称 情報工学 学士教育プログラム	
URGCC学習教育目標		学士教育プログラム学習教育目標	学士教育プログラム学習教育目標がURGCC学習教育目標と対応する理由
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	自律性:自ら掲げた目標を達成するために計画的かつ継続的に行動する。	ほぼ同等の意味になっており対応している。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	社会理解と協調性:学習・研究成果を社会に還元する意義と技術者としての社会に対する責任を理解するとともに、多様な人々と協調して行動する	技術者としての社会に対する責任と、多様な人々との協調性を修得するものであり、URGCCの社会性と対応している。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	社会理解と協調性:学習・研究成果を社会に還元する意義と技術者としての社会に対する責任を理解するとともに、多様な人々と協調して行動する。 柔軟性:幅広い教養と柔軟な思考力を修得し、複雑な問題に適切に対応する。	技術者として社会に貢献する際には、社会を理解し社会に対して責任を持つことが大切であるという主旨であるため、URGCCの地域・国際性の主旨に対応する。また、社会理解のためには幅広い教養と柔軟な思考力が必要となるため、柔軟性も対応づけている。
コミュニケーション・スキル	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	コミュニケーション能力:地域・国際社会で通用するコミュニケーション能力を修得する。	ほぼ同等の意味になっており対応している。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	柔軟性:幅広い教養と柔軟な思考力を修得し、複雑な問題に適切に対応する。 実践性:情報工学分野の実践的な技術を修得する。	氾濫する情報から適切に取捨選択し活用するためには、幅広い教養と柔軟な思考力を修得することが大切であるため対応づけている。また、情報収集を効率的に行うためのITスキルは実践性にて修得する。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	課題解決能力と創造性:情報工学の理論および技術を総合的に活用し、与えられた制約下で創意工夫により課題を解決する能力を修得する。	ほぼ同等の意味になっており対応している。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。	専門性:情報工学分野の専門的な知識を修得する。 実践性:情報工学分野の実践的な技術を修得する。	ほぼ同等の意味になっており対応している。